in ガーナ

みんなの力で道を直す！
土のう工法

ガーナの農村地域に続く赤土の道。雨期にはぬかるみ、農作物を市場まで運べなかったり、病気になってもお医者さんに診てもらえないなんていうことも日常茶飯事だ。

そんな道を簡単に直す方法を伝えているのが、NPO法人道普請人。必要なのは土のうだけ。ぬかるんでしまう部分の土を袋に入れ、それを敷きつめたら上からたたいて平らに固める。最後に土をかぶせれば、雨が降ってもぬかるまない道の完成だ。今後は住民グループを組織化し、道の改修を請け負うことで、現金収入のアップを目指す。

土のうを敷きつめてみんなでたたいて平らにする。必要な器具も村にあるもので簡単に作れる

in ケニア

クリーンでコスト減！
ソーラーランタン

電気が通っていないケニアの地方部でよく使われる灯油ランプ。一度つけると、部屋中が黒煙だらけ。灯油は価格が高い上、健康にも悪く、火事の原因にもなっている。人々の生活を照らす光を届けたいと、パナソニックが普及を目指すのがソーラーランタン。晴れの日に太陽光に当てると、6〜8時間で充電完了。LED電球が約8時間光る仕組みだ。コストはかからず、環境への負荷もない。太陽光発電や蓄電池など、省エネ分野で製品開発で世界をリードしてきた同社。その技術が詰め込まれた品質の高さがウリだ。

ソーラーランタンのおかげで夜でも部屋に明かりがともり、快適に過ごせるように

in バングラデシュ

焼かない!?
レンガ

バングラデシュでは、ガンジス川が運んでくるきめの細かい土を使ったレンガ作りが盛ん。しかし、レンガを焼く時に大量の二酸化炭素が発生し、粉じんや灰などが多く出る。製造に携わる人々の多くは貧困層で、職場環境も過酷だ。

そんなレンガの常識をくつがえしたのが、美濃焼で知られる岐阜県多治見市の亀井製陶が開発した“焼かずに”作るレンガ。灰やプラスチックくずといった廃棄物を主原料に、セメントなどを練り込んで圧縮するオリジナル製法。二酸化炭素や排水、ごみを一切出さず、日本では道の舗装やガーデニング用品として使われている。今後バングラデシュで工場を作り、現地の廃棄物を活用してレンガを生産する体制を整えていく。

大量の土、水、燃料、そして人手が使われているレンガ作りの改善を目指す